

三栖閘門

―舟運のまち伏見を守った防水工事―

山口 敬太 正会員
京都大学

利水と防水の実現

1917(大正6)年10月1日、台風豪雨により淀川大洪水が発生、三栖^{みさ}の堤防が決壊し、「中書島一帯より伏見町の西南部は全部浸水」する有様で、伏見町の浸水家屋は3500戸を超えた(全戸数約5800戸の6割超)。伏見はその5月にも水禍に見舞われていた。

当時の伏見は近世以来の高瀬川の舟運と琵琶湖疏水(鴨川運河)の舟運により、京都―大阪間の重要な河港として発展していた。その半面、水理が複雑になり、淀川改良工事(1910年完成)においても抜本的な治水対策は行われていなかった。しかし大洪水を契機に、伏見防水工事が淀川改修増補工事に加えられ、1918(大正7)年度より宇治川右岸(観月橋―三栖閘)において新堤の築造が進んだ。

伏見防水工事には課題があった。伏見の北方から毎秒22m³超の水量で流下す

る疏水と、その西を流れる高瀬川の水

を、宇治川の洪水時にどう処理するか、

であった。疏水は京都―伏見間唯一の

舟路でもあり、その水は広範な用途で

用いられていた。これに対して坂本助太

郎、谷口三郎の両内務技師が入念な調

査と比較案の検討を行い、谷口と山下

輝夫内務技師が工事を担った。そして、

伏見西郊に放水路(新高瀬川)を新設

し、洪水時に疏水の水を直接宇治川へ

放流することとし、疏水(濠川)の流末

に洗堰と閘門を設けることで、伏見港

を堤内に引き入れ、宇治川に連絡し、水

の利用を続けられるようにした。三栖

閘門の建設は、淀川改修増補工事の中

で最も大規模な工事であり、その費用

は30万円超を要し、約3年の工期を経

て1929(昭和4)年3月に竣工し

た。山下主任技師は増補工事の竣工式

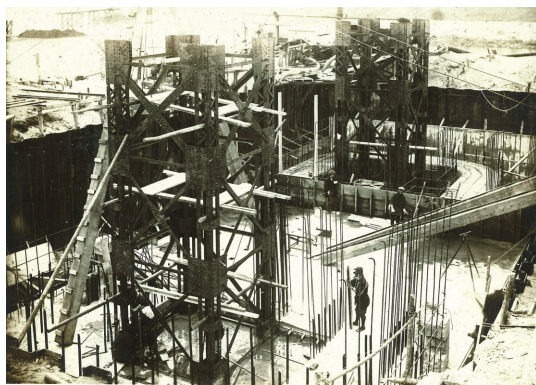
において、伏見防水工事を難工事の一つ

として挙げ、「随分骨を折りました」と

振り返った。

諸元

所在地	京都府京都市伏見区 葭島金井戸町
竣工年	1929(昭和4)年3月
構造形式	塔:鉄筋コンクリート造 基礎:鉄筋コンクリート井筒 鋼製ストローネーゲート
有効長	83.0m
閘室長	73.0m
扉室幅	8.0m
閘室幅	11.0m
塔	高さ16.6m、長さ3.0m、 幅:3.0m



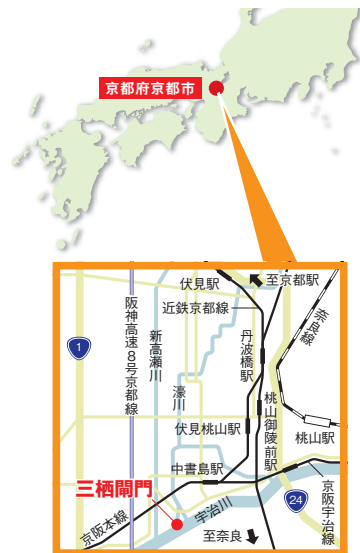
施工中の様子(所蔵:淀川河川事務所)

閘門機能の衰退と蘇生

当時の閘門は合掌扉が一般的であったが、宇治川側の洪水を考慮し、より確実な操作や維持修理の行いやすさを求めて、三栖閘門では引上扉を採用した。高さ約16・7mの塔は、マンサード屋根にアル・デコ調の意匠が瀟洒で、明るく軽快な印象を与える。



竣工直後の様子(左は三栖洗堰)(所蔵:淀川河川事務所)

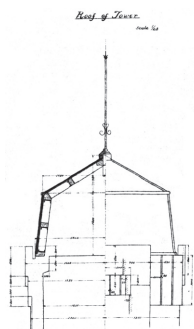




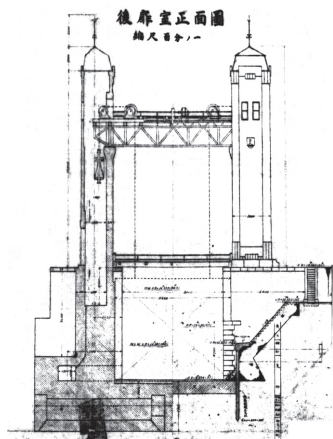
修復された三栖閘門(伏見みなと広場より)

その後も、淀川航行者たちの働きもあって伏見港は港湾法上の指定港湾となり(1934年)、京都の工業振興を目的とする伏見港修築により船溜(長さ約230m、幅約60m)がつくられる(1947年)など、さらなる発展の動きもあつた。しかし、昭和30年代には舟運の需要が急速に低下し、天ヶ瀬ダムの完成(1964年)による宇治川の水位の大幅な低下もあって、1968(昭

和43)年に船溜は埋め立てられ、港の機能は失われた。三栖閘門は閘門としての役目を終えた。
完成から70年余りを経た2000(平成12)年、国交省近畿地方整備局淀川河川事務所は、三栖閘門の維持管理計画を立て、閘門を修復保全し、周囲一帯を公園として整備した。水が抜かれていた閘室には水が引き込まれて船着場が設置され、今では住民が運



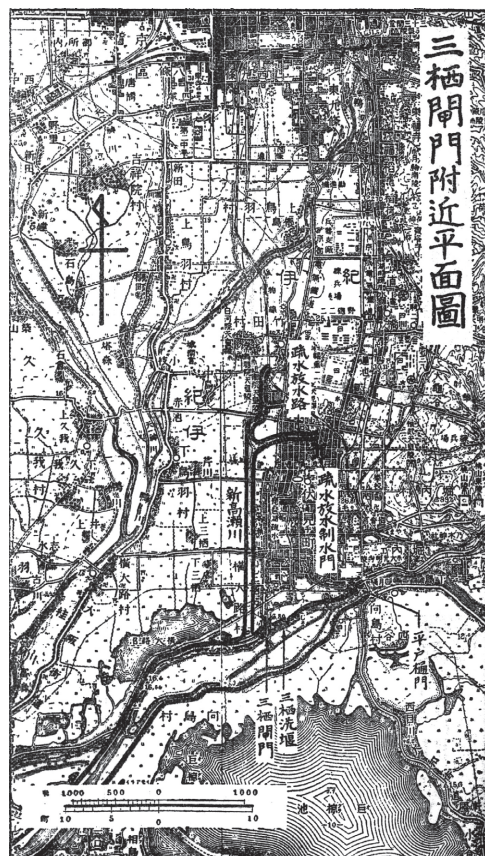
後扉室正面図



後扉室正面図と塔屋根の断面図
(所蔵:淀川河川事務所)

営する観光船(十石船など)の発着場として利用されて賑わう。閘門の後扉室は展望塔および展望台として、復元された旧操作室は三栖閘門資料館として、保全活用されている。かくして、三栖閘門は近代期の伏見の発展と防水の歴史を伝える使命を得て、公園のシンボルとして生まれ変わった。その瀟洒な意匠も市民に愛されるゆえんである。

- 参考文献
(一) 山下輝夫・内務省大阪土木出張所技師…伏見防水工事の概要、水利と土木 3 巻 11 号、1930 年
(二) 内務省大阪土木出張所…淀川改修増補工事概要、1930 年
(三) 武岡充忠・淀川治水誌、1931 年
(四) 近畿地方建設局…淀川百年史、1974 年
(五) 京都日出新聞、1917 年 10 月 2 日付
(六) 大阪時事新報、1930 年 10 月 5 日付
(七) 秋元せき…近代京都における地域開発構想と地方財界―伏見港修築と京阪運河計画をめぐって―、京都市歴史資料館研究紀要 第 23 号、2011 年



三栖閘門附近平面図⁽¹⁾